

講義コード	1560320000
講義名称	国際法A <春>
科目英文名	International Law A
開講責任部署	法学部 法律学科
代表ナンバリングコード	0LAW2500
単位数	2.0
時間割	春学期: 金曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
軽部 恵子

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	この講義では、国際法の基礎を学びます。具体的には、近代国際法が誕生した歴史、国際法の重要原則、国際法の最も重要な主体である国際法上の国家を取り上げます。国際法がわかると、新聞やテレビの国際ニュースがよくわかるようになります。それは、国際法が国家の行動を規律する世界共通のルールだからです。国際法の第2回から第4回は、国際機構論Aの第2回から第4回と同じ教材を用いますが、国際法の視点から考えていくため、同じ講義内容ではありません。講義冒頭に、国内外のメディアのホームページを用いて、最新の時事問題を国際法の視点から解説します。受講生は、メディアを批判的に読み解く「メディア・リテラシー」を学んでください。
学習（到達）目標	①国際社会が成立する歴史的背景（大航海時代から20世紀初めまで）を理解する。 ②国際法の基礎知識、とくに国家主権・管轄権・領域に関するものを修得する。 ③国際問題の理解に必要な一般教養、とくに歴史・地理・文化・宗教に関する基礎知識を獲得する。 ④メディア・リテラシーを身につける。

講義・演習計画

回	内容
第1回	国際法とは何か
第2回	戦争と平和の法（1）大航海時代、宗教改革、三十年戦争
第3回	戦争と平和の法（2）フランス革命とナポレオン戦争
第4回	戦争と平和の法（3）ハーグ平和会議と赤十字国際委員会
第5回	国際法の基本原則 ※この回から条約集を毎回持参してください。
第6回	国家（1）国際法上の国家
第7回	国家（2）属地主義と国籍主義
第8回	国家（3）犯罪人引渡し
第9回	国家（4）領域の得喪
第10回	国家（5）領土紛争
第11回	国家（6）海洋法① 無害通航権
第12回	国家（7）海洋法② 通過通航権
第13回	国家（8）海洋法③ 排他的経済水域、公海、深海底
第14回	国家（9）領空と宇宙空間
第15回	まとめ、期末試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	計3回の試験のみで成績評価を行います（試験は授業時間中に実施し、事前に日程を発表しない）。出席は成績評価に全く関係ありませんが、出席しない人に単位修得は困難です。成績が振るわなかった受講生のために、追加の試験やレポートを課すことは一切ありません。詳細は第1回授業資料を読んでください。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.		国際条約集2026	大学オンライン販売		有斐閣	

参考文献	加藤信行『ビジュアルテキスト国際法』第4版（有斐閣、2025） 中谷和弘他『国際法』第5版（有斐閣、2024） 浅田正彦他『国際法』第5版（東信堂、2022） 大沼保昭『国際法』（ちくま新書、2018） 祝田秀全『知識ゼロからの戦争史入門』（幻冬舎、2020） 西谷修『ロジェ・カイヨワ 戦争論：文明という果てしない暴力』（NHK出版、2024） 田中久美子監修『理由がわかればもっと面白い！西洋絵画の教科書』（ナツメ社、2021）
事前および事後学習の指示	毎回の授業で指示される参考文献や参考URLをもとに、事前および事後学習をしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	国際法、国家主権、領域、武力紛争、戦争、国際人道法、世界史

講義コード	14D2210000
講義名称	西洋経済史Ⅰ <春>
科目英文名	Economic History of Europe Ⅰ
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	ECON1490
単位数	2.0
時間割	春学期: 金曜日 1時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
豆原 啓介

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	古代ローマ時代から、産業革命までの西洋経済史を学ぶ。 『テルマエ・ロマエ』などの歴史映画や映像資料を頻りに視聴しながら、具体的なイメージを学生が持てるように留意しながら、授業を進める。 また、狭い意味での経済のみならず、芸術(音楽、美術、建築など)や、食文化などをトピックとして扱う。 受講生の学部・学年は問わない。
学習(到達)目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中世から近代に至る西洋経済史の流れを把握し、基礎的な事項を理解すること。 ・経済のあり方が歴史を通して構築されるものであることを理解すること。 ・現在存在する経済システムの多くがヨーロッパに歴史的な起源を持つことを理解すること。

講義・演習計画

回	内容
第1回	映画『テルマエ・ロマエ』鑑賞
第2回	映画『テルマエ・ロマエ』から考える、古代ローマの経済と現代日本の経済
第3回	中世のヨーロッパ都市を映像散歩してみよう!! ー現代の都市と何が違うだろうか?ー
第4回	「商業の復活」と、ルネサンス ーなぜヴェネツィアとフィレンツェは観光客を集めているのか?ー
第5回	大航海時代の到来 ーポルトガルとブラジルの海洋覇権競争ー
第6回	映画『提督の艦隊』鑑賞
第7回	映画『提督の艦隊』から考える、近世オランダの経済と商業
第8回	前半のまとめと復習/ ファッション大国フランスの起源
第9回	産業革命はなぜイギリスでスタートしたのか? ①ふたつの市民革命
第10回	産業革命はなぜイギリスでスタートしたのか? ②科学革命の背景
第11回	イギリス産業革命①繊維製品からのスタート
第12回	イギリス産業革命②機械化の進展
第13回	近世・近代の文化芸術と西洋経済史
第14回	後半部分のまとめと復習
第15回	期末テストの実施およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	90%
レポート	0%
その他	10%

成績評価の方法（コメント）	試験は、復習テストと、期末テストによって構成される。 テストに際しては、授業で配布したプリントのみ、持ち込み可とする。 「その他」は、映像資料などへのコメントシートの提出を指す。
---------------	---

参考文献	奥西孝至、鳩澤歩、堀田隆司、山本千映著『西洋経済史』有斐閣、2010年。 須藤功、廣田功、山本通、馬場哲著『エレメンタル西洋経済史』晃洋書房、2012年。
事前および事後学習の指示	事前学習は特に必要とはしないが、歴史科目という特性上理解すべき事項が多岐にわたるために一回の授業が終了する都度、各自が復習し理解の上で次回の授業に臨むことが望まれる。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	14D3320000
講義名称	経済政策Ⅱ <春>
科目英文名	Economic Policy II
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2465
単位数	2.0
時間割	春学期: 金曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
吉弘 憲介

授業形態	プレゼンテーション	グループワーク	パソコン実習
	実務経験のある教員による授業①		
	シンクタンク勤務経験教員による授業。		

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 その他
---------------	-------------------------------------

講義・演習概要	<p>・経済学を通じて自分の考えを「言語化」する力を鍛えませんか？ 「大阪は発展しているの?」、「地域経済の魅力って何?」、「観光客を呼び込むにはSNSしか勝たんでしょ」、こうした疑問やアイデアを解き明かしたり、その真偽を確かめるためにはどのような方法があるのでしょうか。 方法の一つとして、データを利用して「確認」をすることがあります。インターネットの普及によって、利用できるデータの数は急速に増えています。データを確認するためには、幾つかの手順や方法、コンピュータなどの「道具」の使い方をする必要があります。データ分析のためには統計学やプログラムについても多少の知識が必要になります。しかし、生成AIの急速な発展によってプログラムを自分で書くためのハードルはとて低くなりました。 経済政策Ⅱではこの世の中の政治や経済、社会における「何故?」や「どうしたらいいの」という疑問に対して、データを使って自分の考えを「言語化」する力を身につけることを目指します。 自分の思いや考えをデータとその分析を通じて「言語化」することは、みなさんが就職活動や社会に出て活躍する際に絶対に役に立ちます。経済政策のフィールドで、自分の考えをデータを使って言語化しませんか?参加を待っています。</p>
学習(到達)目標	<p>例題を自分で解いて行くことを通じて、データ収集、課題設定、分析手法(OLSとロジット分析など)、分析結果の読み取り方などを学んでいきます。教員の解説だけでなく、適宜、生成AIなども活用しつつ、分析結果を読み解く力をつけます。</p> <ul style="list-style-type: none">・インターネットを通じて必要な情報をあつめる方法・自分でデータを作る、必要なデータを収集する方法・取得したデータの構造を理解する・分析しやすいようにデータを整理する・データを分析するための方法論・出力された結果を確認し読み解く <p>最終的に自分で考えた課題について、データを通じて分析をし、レポートを提出してもらいます。</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	授業のガイダンス、評価方法等についての説明、PCのセットアップ
第2回	統計ソフトの使い方エクセルとRについて
第3回	エクセルを便利に使う(関数とフィルター、ピボットテーブル)
第4回	Rのプログラムで何ができるか
第5回	書いてあるプログラムをAIにかけて解説させてみよう
第6回	データを探してみよう(1) e-Stat編
第7回	データを探してみよう(2) 世界銀行、OECD編
第8回	データを作ってみよう アンケートによる収集と分析方針
第9回	回帰分析にチャレンジしよう

第10回	ロジット分析にチャレンジしよう
第11回	検定の意味を知ろう
第12回	データに基づいた主張を考えよう
第13回	課題のためのデータを探そう
第14回	分析を行い結果を報告しよう
第15回	データを使って自分の主張を言語化しよう

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	適宜課題の提出を行ってまいります。出席して課題を提出した場合、それぞれの水準に応じて点数をつけます（全体評価60%）。最終提出物で40%の評価を行います（レポート）。
---------------	---

参考文献	適宜指示します。
事前および事後学習の指示	前回の授業ポイント動画などを復習すること。また、その日におこなう内容のレジュメを事前に確認すること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	データ分析、言語化、生成AI活用、R、経済政策、地域経済

講義コード	16D0850000
講義名称	社会ビジネスの理論と実践Ⅰ <春>
科目英文名	Theory and Practice of Social BusinessⅠ
開講責任部署	経営学部 経営学科
代表ナンバリングコード	BUSA2490
単位数	2.0
時間割	春学期: 金曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
西藤 真一

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	<p>近年、地域や社会が抱える課題の解決をミッション（使命）として、ビジネスの手法を用いて取り組むもの「ソーシャル・ビジネス」の取り組みが各地で見られるようになってきました。そのような公益的な活動を行う組織としては従来からNPOがありましたが、寄付だけでは活動資金を賄えないという現実的な課題にも直面してきました。</p> <p>一方、民間企業においても社会的責任（CSR）を全うするという視点から公益にも目が向けられてきました。国連でSDGsが提唱されるようになると、社会的な課題に企業自身が取り組むこと自体が企業の新たなビジネスチャンスをもたらすとも理解されるようになりました。さらに、住民も参画した、協働・共創（co-production）によって社会の様々な問題に対処しようという動きも加速しています。</p> <p>このように、近年、従来、公共が担うべき役割とされた社会課題の解決には、NPOや民間企業、住民など様々なアクターがかかわっていることがわかります。そこで、本講義では社会課題をビジネスの手法で解決しようとする「ソーシャル・ビジネス」について、おもに3つの視点を提示しながら解説します。</p> <p>① 社会課題の解決に向けたアクターをめぐる議論の展開（福祉国家・NPMの展開） ② 社会的経済とサードセクターの役割（アクターの概念的整理） ③ わが国におけるソーシャル・ビジネスの展開（経緯・事業戦略）</p>
学習（到達）目標	<p>学習到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会課題の存在に取り組む主体とその役割について理解できる 2. 地域の抱える課題にどのような取り組みがあるか把握できる 3. 社会課題に対する取り組みとしてどのような課題が残されているか理解できる

講義・演習計画

回	内容
第1回	第1回：イントロダクション：ソーシャル・ビジネスの展開に向けた期待と課題
第2回	政府の役割について：福祉国家の考え方とNPM（New Public Management）の展開
第3回	政策思想の展開：おもに経済政策の観点から
第4回	会社組織の基本的な理解
第5回	ソーシャル・エンタープライズとは何か
第6回	企業の「ステークホルダー」に対する認識の深まり
第7回	企業の社会的責任とソーシャル・エンタープライズの相違
第8回	中間テストと授業前半の解説
第9回	持続可能な開発に向けた取組
第10回	環境問題にどう取り組むか：航空事業を例に
第11回	持続可能なまちづくりにどう取り組むか
第12回	企業はなぜ連携するのか：M&Aとの対比

第13回	社会変革をもたらす源泉：ソーシャル・イノベーション
第14回	期末テストと授業後半の解説
第15回	地域社会をビジネスで解決するための手法：ビジネスプラン

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	ほぼ毎回の授業で授業中課題として確認問題に取り組みます。習得した知識の定着を確認するため、中間・期末テストを2回ほど実施します。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	谷本寛治	『企業と社会-サステナビリティ時代の経営学』	学生独自購入		中央経済社	

参考文献	山本隆（2014）『社会的企業論—もうひとつの経済』法律文化社
事前および事後学習の指示	事前に資料を配布するので、資料に目を通してから授業を聴講すると理解が深まる。また、事後的にはほぼ毎回、確認問題を提示するので、真面目に取り組むこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	NPM, ステークホルダー, CSR, SDGs, ソーシャルビジネス, 社会的経済

【社会人の方へ】授業中に試験を実施します。

講義コード	17N2020000
講義名称	総合人間学A <春> ※遠隔授業（同時双方向型）
科目英文名	Study on Humanity A
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT2510
単位数	2.0
時間割	春学期: 金曜日 1時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
片平 幸

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① 国立公園管理・森林保全等の実務に従事した方
------	----	--

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	<p>20世紀から21世紀にかけて、学問分野は高度に専門化・細分化され、さまざまな「学」が成立してきた。しかしその一方で、地球環境や人口問題、そして教育や人権、さらに感染症や国際紛争といった、今日の人類が直面する複合的な課題は、個別の「学」のみでは十分に理解・解決することが困難となっている。こうした背景のもと、自然科学と人文・社会科学を横断する学際的な知の構築が強く求められている。</p> <p>本講義は、こうした学問的要請に応えるため、複数の講師によって構成されるインテグレーション科目として実施される。各分野の最新の研究成果を紹介しながら、「人間」を生物学的存在としてのヒトと、文化・社会・歴史の担い手としての人間の双方を含む存在として捉え直し、現代文明のもとで生起している諸問題を多角的に検討する。</p> <p>特に、2020年以降の新型コロナウイルス感染症の世界的流行や急速に変化する国際情勢を目の当たりにし、ポスト・コロナ時代の世界をいかに生き抜き、構想すべきかを考えたい。</p>
学習（到達）目標	<p>本講義を履修することにより、学生は以下の能力を身につけることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然科学および人文・社会科学の基礎的な知見を踏まえ、人間をめぐる諸問題を文化・歴史・社会的背景と関連づけて多面的に理解することができる。 2. 現代社会に関する多様な情報や言説を批判的に検討し、専門分野を横断する視点から主体的に問題を捉え、判断する力を身につける。 3. 日本を含む世界の文化や社会、現代情勢に関心を持ち、異なる価値観や文化的背景を持つ他者を理解し、受け入れようとする姿勢を養う。 4. 講義で得た知識や視点を整理し、現代的諸問題について自らの理解を、適切な表現を用いて論理的に説明することができる。 5. 人類が直面する地球規模の課題について、自らの意見を形成し、その根拠を示しながら発信することで、共通する課題や価値について考察を深めることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	授業のテーマとキーとなる概念について説明する。その他、授業の概要や授業計画、参考書、評価などについてオリエンテーションを行う。
第2回	アフリカの野生生物研究について
第3回	アフリカの先住民族の現在
第4回	東南アジアの先住民とその研究史
第5回	東南アジアにおける多文化共生の現状と課題
第6回	現代中国の若者の考察
第7回	アメリカの公民権運動の歴史
第8回	アメリカの公民権運動が残した課題
第9回	国際情勢における国連安全保障理事会の役割
第10回	法律からみるジェンダー平等
第11回	キリスト教におけるクリスマスとは
第12回	宗教と戦争

第13回	歴史人口学からみる死と社会
第14回	日本におけるハンセン病の捉え方の変遷
第15回	これまでのテーマの振り返りと理解度の確認

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	0%
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	<p>その他：授業後コメント100%</p> <p>本授業の成績評価は、全15回の授業のうちオリエンテーションを除く14回で実施する授業後コメントの提出状況および内容に基づいて行う。各回、授業終了後に200～400字のコメントを課し、提出されたすべてのコメントを評価対象とする。</p> <p>評価にあたっては、①授業内容を的確かつ十分に理解しているか、②授業で扱った具体的な内容に基づいて記述されているか、③感想にとどまらず、相対的・客観的な視点から考察がなされているか、④文章表現が適切で論理的に構成されているか、などの点を総合的に判断する。これらの評価を累積し、最終的な成績とする。</p> <p>コメント未提出回は評価対象外=0点 欠席=原則としてコメント提出不可 正当な理由（体調不良・公的理由等）がある場合のみ、教員判断で代替課題または期限延長を認めることとする。</p>
---------------	--

参考文献	<p>尾本恵一『ヒトと文明』（ちくま新書） 西原智昭『コンゴ共和国 マルミミゾウとホテルの行き交う森から』（現代書館）</p>
事前および事後学習の指示	<p>事前学習：ゲスト講師が挙げた参考文献及び授業資料を読むこと。 事後学習：ゲスト講師の授業内容に関わる資料を根拠として、理解したことをまとめて文章化して提出すること。</p>
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	学際的な知、自然科学、人文学、社会科学

講義コード	1E60020001
講義名称	健康・スポーツ科学講義-体力トレーニング論 01<春>
科目英文名	Lecture for Health and Sports Science – Theory of physical fitness
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	HSPT1000
単位数	2.0
時間割	春学期: 金曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
井口 祐貴

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	本講義では、体力の概念、トレーニング法の原理原則など、体力トレーニングの基礎的な理論や情報、考え方に関する知識や、人々の生涯にわたる健康づくりに寄与するであろう体力トレーニングの意義について学習します。講義は、パワーポイントを中心に授業を展開し、映像資料なども用いて、体力トレーニングに関わる実践現場の視点からもアプローチしていきます。
学習（到達）目標	本講義では、健康・スポーツ科学に基づいた体力トレーニングに関する基礎的な理論について理解を深め、自己の体力向上・健康づくりを目的とした体力トレーニングの実践につながる教養を身につけることを目指します。 講義内では、「身体的な健康の基礎である身体の構造や機能の基礎知識を踏まえて、体力トレーニングの意義を説明できる」、「体力トレーニングという概念を幅広くとらえ、身体活動を切り口として、体力向上・健康増進の意義と社会における体力トレーニングの役割を説明できる」を具体的な到達目標とします。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス (授業計画の概略説明)
第2回	体力トレーニングについて考える
第3回	トレーニングの原理・原則
第4回	運動とエネルギー代謝
第5回	有酸素運動
第6回	レジスタンストレーニング
第7回	体力トレーニングの実践方法
第8回	運動と栄養
第9回	スポーツ競技者と体力トレーニング
第10回	障がい者と体力トレーニング
第11回	発育発達と体力トレーニング
第12回	高齢者と体力トレーニング
第13回	体力トレーニングと性差
第14回	生活習慣病とその予防
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	20%
レポート	30%
その他	50%

成績評価の方法 (コメント)	<p>(1) 試験 (20%) は、授業内においてLMSを用いて行います。</p> <p>(2) レポート (30%) は、到達目標に関連するテーマを設定した1000-1400字程度のレポート課題を2回課します。</p> <p>(3) 授業においては毎回、講義テーマに関連するテーマを設定した小課題および小テストを課します。毎回の授業において課される課題の内容は、担当教員から講義中、ならびにLMSを通じてその都度指示が出ます。</p> <p>(4) その他 (50%) は、毎回の授業において課す課題の提出および回答から、課題への取り組み、理解度等を総合的に評価します。</p> <p>(5) 課した全ての課題 (レポートも含む) のうち、3/4 (提出率 75%) 以上の提出がなければ、原則として単位認定対象外となります。</p>
-------------------	--

参考文献	<p>「公認スポーツ指導者養成テキスト」公益財団法人 日本スポーツ協会</p> <p>「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト」公益財団法人 日本スポーツ協会</p> <p>「トレーニング指導者テキスト (理論編・実践編・実技編)」NPO法人 日本トレーニング指導者協会</p>
事前および事後学習の指示	<p>体力トレーニングや健康づくりに関する書物や映像で事前に学習し、理解に努めておいてください。また当科目は講義科目ですが、スポーツや身体活動の実践、体力の向上や健康の維持増進についての方法などにも興味を持って授業に臨んでください。これにより、講義を通して体力向上・健康づくりや健康問題への理解をより深めることができます。授業の予習・復習の他、授業で配布する資料等に目を通して受講してください。尚、授業において課す課題の提出期限については厳しく取り扱いますので、留意の上、受講するようにしてください。</p>
学習時間	<p>事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間</p>
キーワード	<p>スポーツ健康科学、体力、トレーニング、健康づくり</p>